

スタッフ通信

体験実習からの成長	ジョブコーチ T	Vol. 236	令和 6 年度 9 月
<p>ことわざにある「光陰矢の如し」の通り、あっという間に1年が経過しました。これまで障がいのある方を対象として働いたことがない私にとっては毎日が驚きと学びの多い日々でした。その中で印象深く残った、体験実習をきっかけにして「変化」を感じた事例を紹介しようと思います。</p> <p>20代男性、自閉スペクトラム症のYさんです。大学4年生で退学し、退学したからには就職しないといけないと思い、事務補助での実習を希望しました。</p> <p>1日目の実習終了後Yさんから「他人が傍にいる環境がとてもストレスで実習時間の延長は無理だ」と言葉があり、3日間とも10:00～15:00までの実習となりました。髪を掻いたり、貧乏ゆすりをしたりとストレスを感じていることが如実にわかりました。遅刻や欠勤もなく体験実習を終え、今後の方向性を考える際に「自分には働くための準備が必要だと思う」と自己分析し就労移行支援事業所への通所が決まりました。</p> <p>福岡市ホームページの事業所一覧で就労訓練の主なメニューを参考にしながらYさんとともに5ヶ所見学後、2ヶ所で体験利用も行いました。</p> <p>私は勝手にコミュニケーションを苦手としている方なので他者と全く接点を持たない事業所を選択するだろうと確信していました。</p> <p>ところが、Yさんからは「事業所を選ぶときに自分に負荷をかけるか、かけないか、この1点につける」という言葉が出ました。そして、悩んだ末、訓練プログラムに他者と関わりを持つ必要がある事業所を選択しました。</p> <p>体験先に「小学校の時に先生からイラストの絵を誉められた」と言い、自宅から道具を持参されていました。Yさんの積極性を感じられて大変嬉しく思いました。</p> <p>センターでの面談場面だけで全てを理解したような感覚でいた自分をとても反省しました。</p> <p>この体験実習を振り返った時、Yさんにはこの実習が就労に対する転機になったのではないかと思います。体験実習はその方の強みと課題を明確にし、今後の就労に向けた活動に役立つものです。会社や企業の方々の協力があってこそこの体験実習です。せっかくの機会をよりよいものにできるように対象者とともに真摯に向き合っていこうと思います。</p>			